

# 豊橋市議会 傍聴記

地方政治  
クリエイト

## 伊藤 秀昭

「逃げ遅れ」セ

尾林伸治氏(公明)が取り上げたのは高齢者や障害者といった災害弱者が逃げ遅れるような悲劇を防ぐために成立した「改正水防法」。最大のポイントは配電が必要な人が利用する施設に、避難計画の策定や訓練を義務付けた事。

その実態は児童福祉施設では訓練を実施している施設は6

て関連事業に充てる考えはないかと質問した。

福祉部長は「70歳以上の8割を超える方が郵便局で共用乗車券を受け取っており、高齢者の社会参加を促す効果が検証されている」とした

■ICT社会  
多様な住民ニーズ

に対応するためにICTを活用した様々な取り組みが期待される中で、自治体クラウド導入の動きもあり、オープンデータや官民データを活用した取り組みについて質問したのは廣

田勉氏(まちなかフォーラム)。

を蓄積利用できるポータルサイトを公開し、地域の魅力発信や新規ビジネスにつながることを期待している」とした。

■子どもの貧困

齋藤啓氏(共産)は、県と豊橋市が行った子どもの貧困調査の結果分析に基づき子育て世代への支援策について問題提起した。

子ども未来部長は「子どもの貧困率は

や家庭が適切な支援を受けられるよう、きめ細かく対応していく」とした。

■メタルプロジェクト

宮澤氏は同プロジェクトに取り組みにあたっての具体的手法について論じ、「使用済み小型家電がメタルとして輝く」とにより、国民一人ひとりの思いが伝わる五輪史上初のプロジェクトの成功に向けて大いに期待した。

■メタルプロジェクト

は「障害者雇用促進法」に基づく豊橋市の障害者雇用率が2・34%で法定雇用率(2・3%)を上回っていることを評価。その象徴である庁内障害者ワークステーション「わくわく」が順調に業務量を増やし、中にははくすのき特別支援学校の卒業生2人も含まれていることなどにより、障害者就業に対する文化が醸成されていることを印象つけた。

障害者雇用をテーマにしたさわやかな質問だった。

3日間19人の豊橋市議会一般質問で気になるのは、60分の持ち時間のうち、その3分の2の40分以内で終わった質問者が8人いた事である。

憲法第93条「地方公共団体には法律に定めるところにより、その議事機関として議会を設置する」とされる議会の発言である。時間も目いっぱい使った地方自治の本旨に從い、住民の代弁者の気概と誇りを持って登壇してほしい。

### 住民の代弁者としての気概と誇りを

田勉氏(まちなかフォーラム)。

総務部長は、岡崎市と独自に共同開発を行い「総務大臣賞」を受賞するなどの先進的な取り組みを紹介。官民データについても「民間データ

広域化、GISの活用など汎用性の高い積極的な取り組みを強調した。

急速度で進化するICT社会の流れに沿った的確な質問だった。